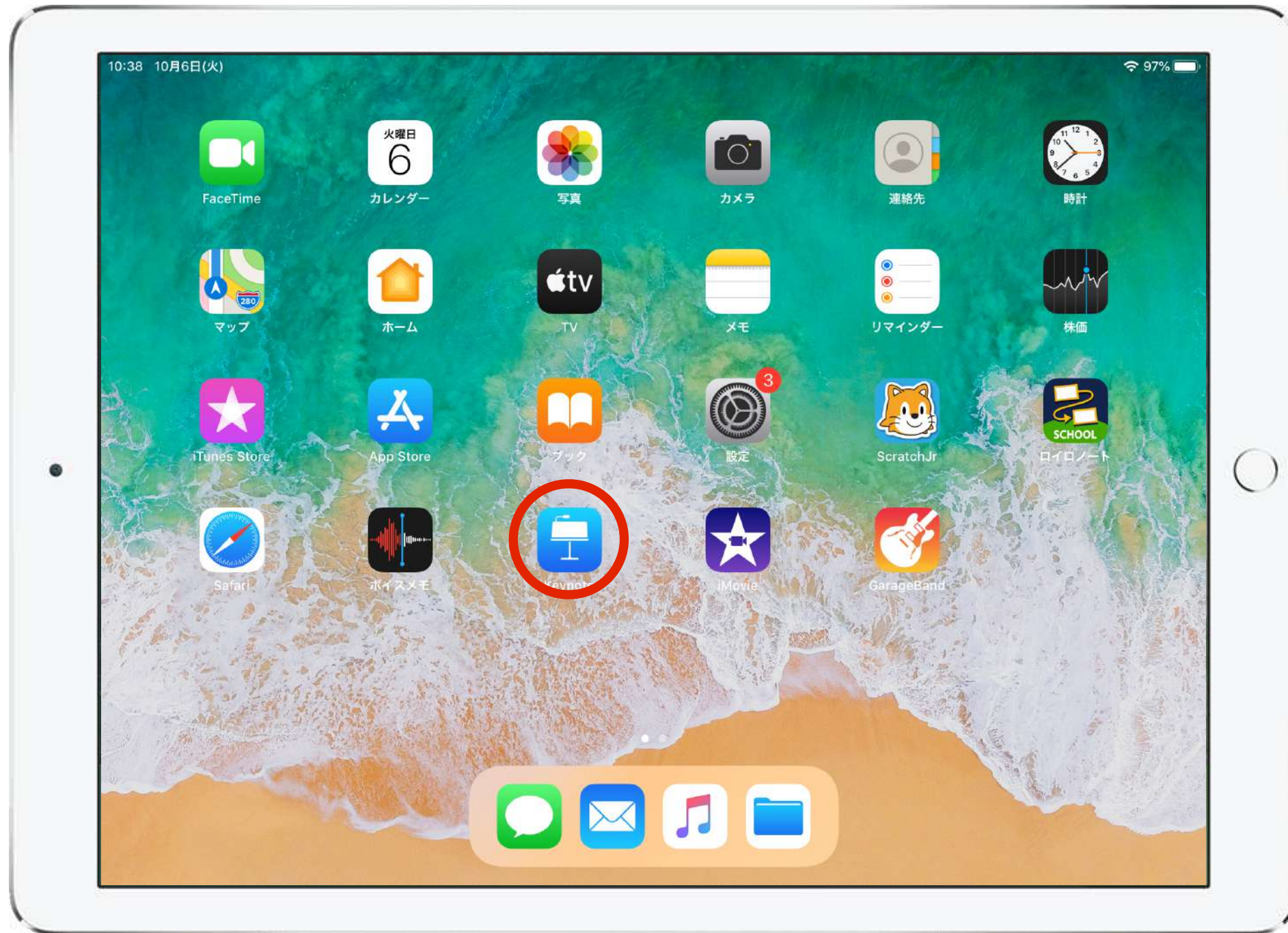


Keynoteによるオリジナル教材作成②

ー描画機能でイラストを描こうー

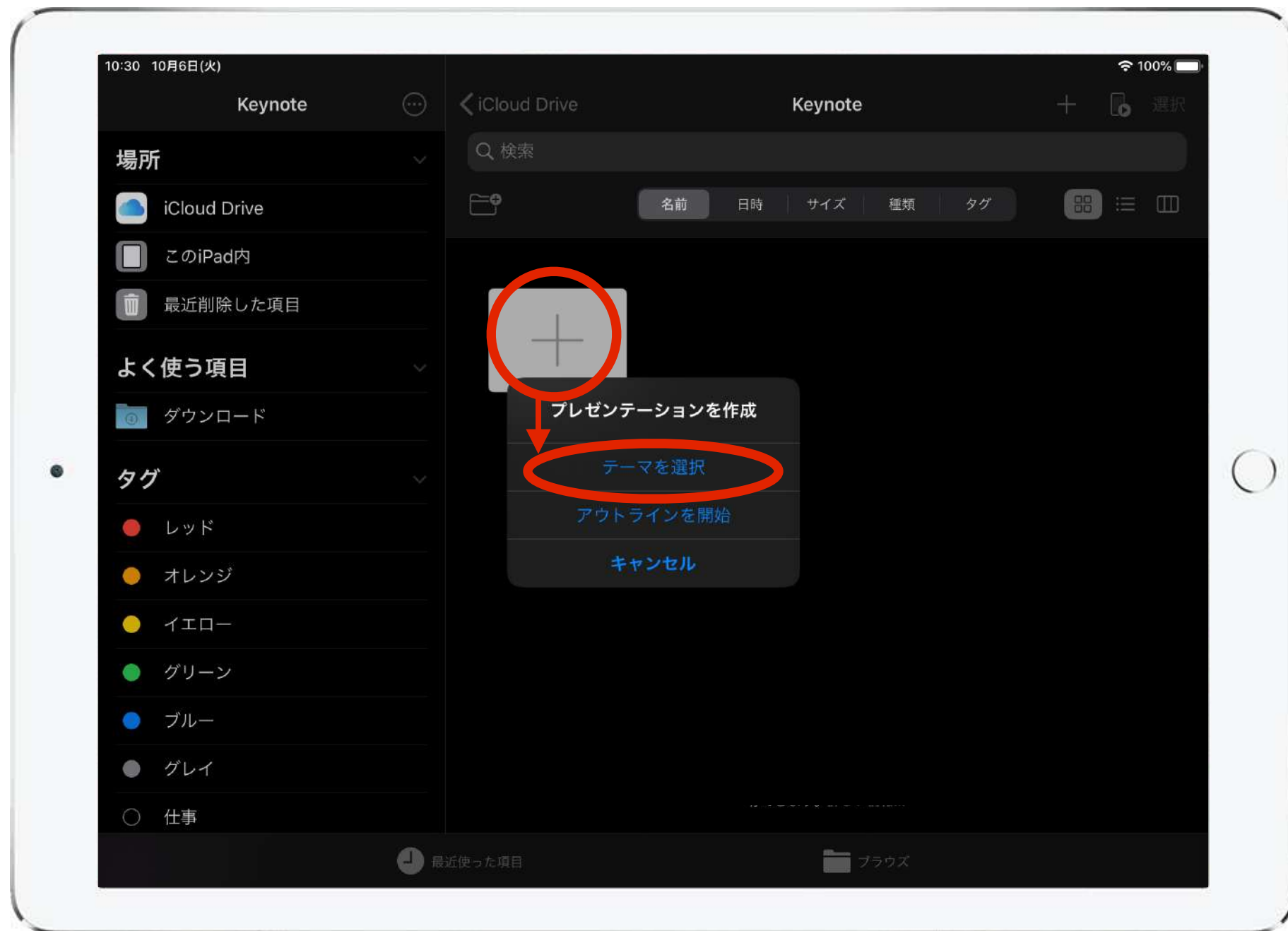


1、プレゼンテーションの新規作成



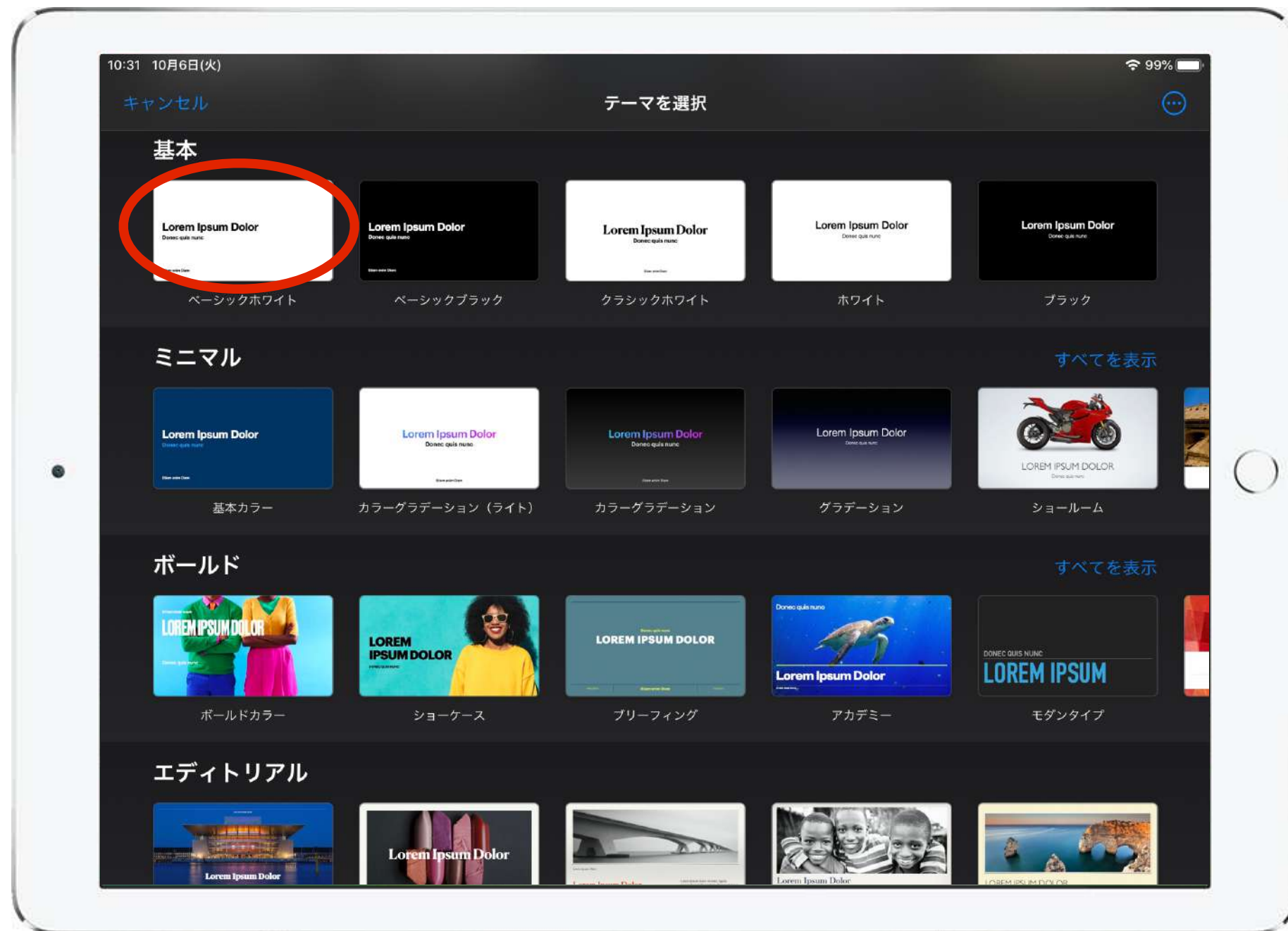
Keynoteのアイコン  をタップする。

1、プレゼンテーションの新規作成



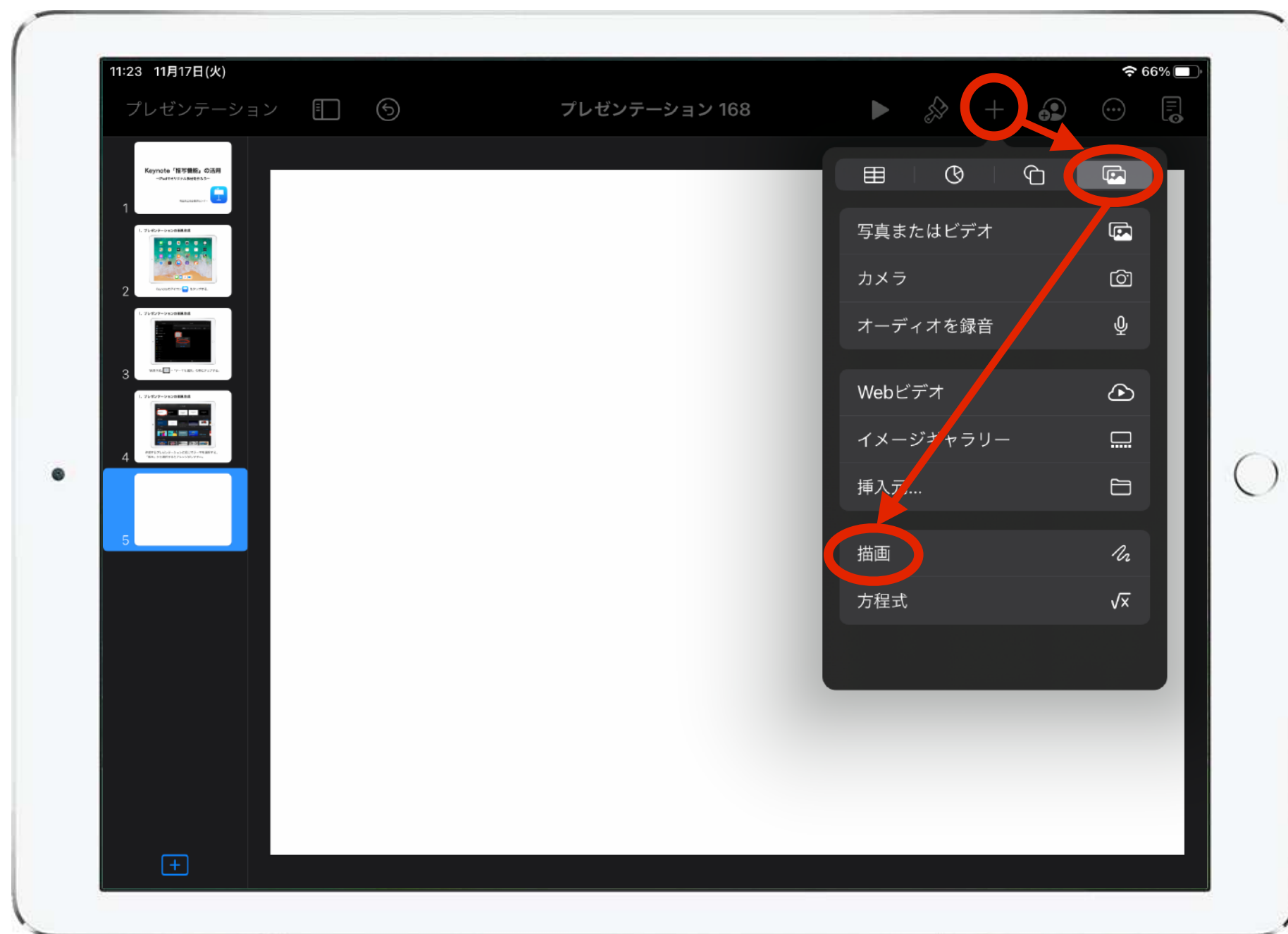
「新規作成」 → 「テーマを選択」の順にタップする。

1、プレゼンテーションの新規作成



作成するプレゼンテーションに応じてテーマを選択する。
「基本」から選択するとアレンジがしやすい。

2、描画モードの開始



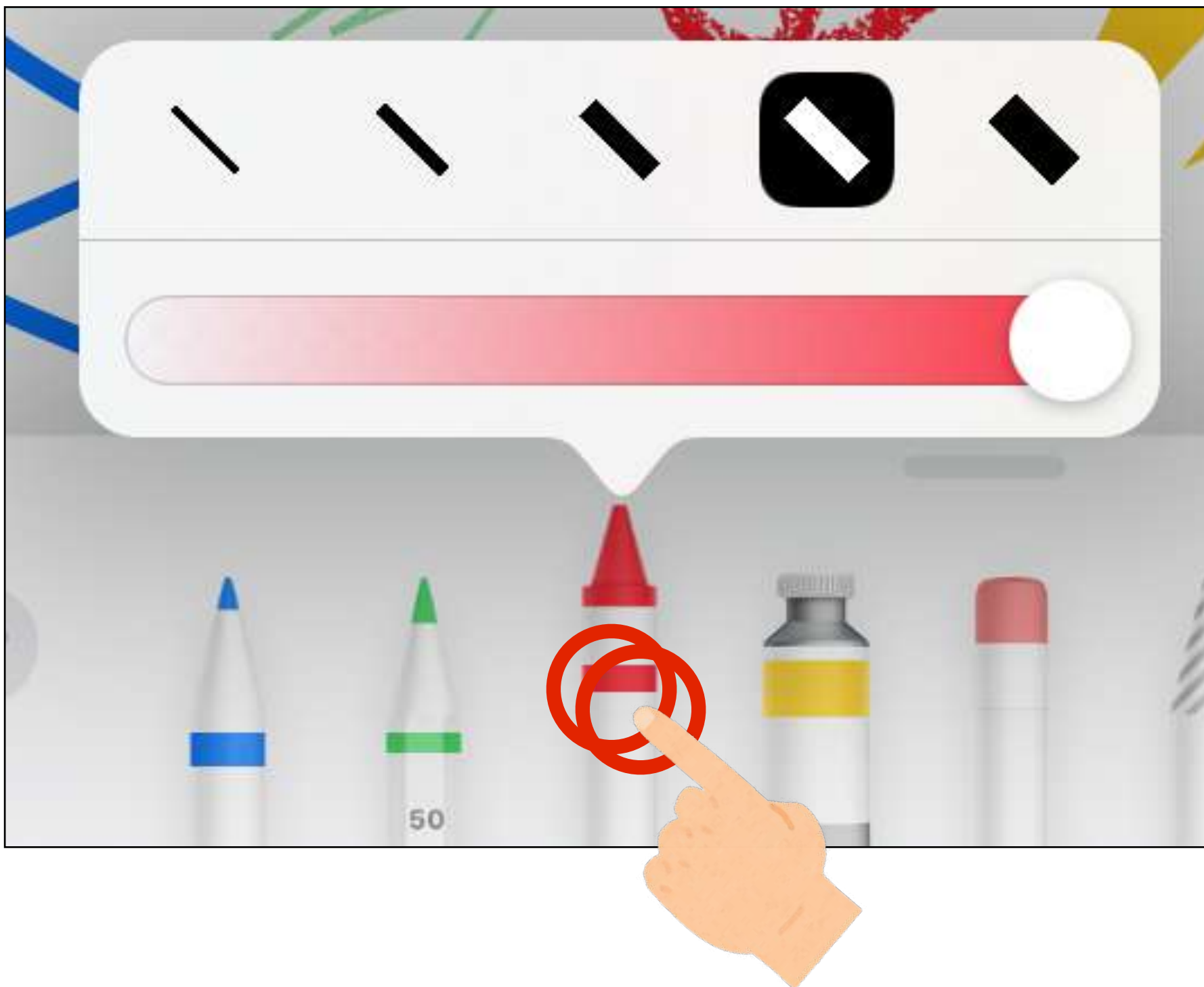
右上メニュー「+」→「」→「描画」を選択すると、描画モードになる。

3、描画の基本操作



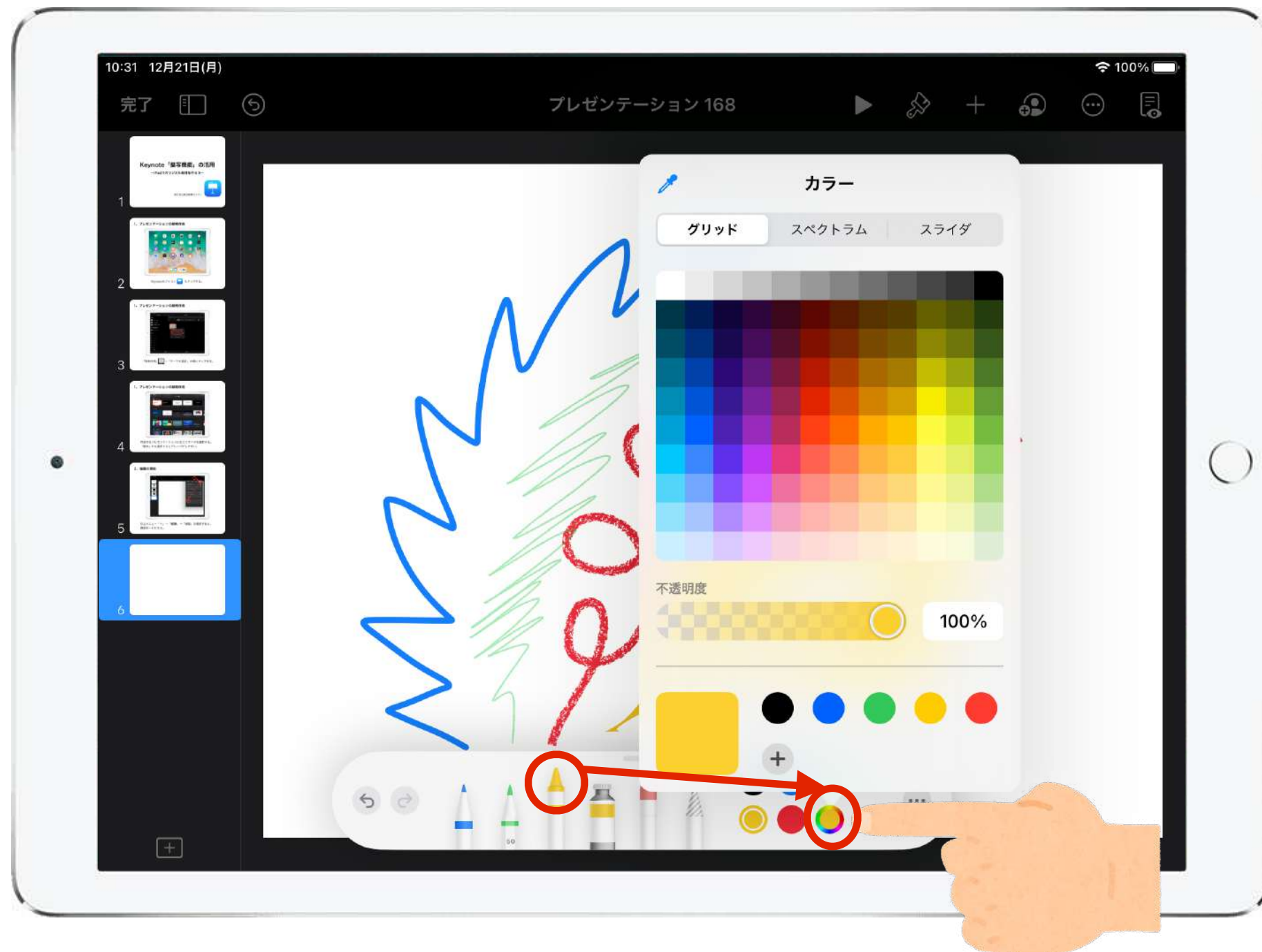
各ツールをタップして選択することで、画面に描くことができる。

3、描画の基本操作



クレヨンなどのツールをダブルタップすると、線の太さや不透明度などを設定するメニューが出現する。

3、描画の基本操作



ツールを選択後、パレットをタップすることで色を設定できる。

3、描画の基本操作



画面左上の「完了」をタップすると描画モードが終了し、通常の編集画面に戻る。

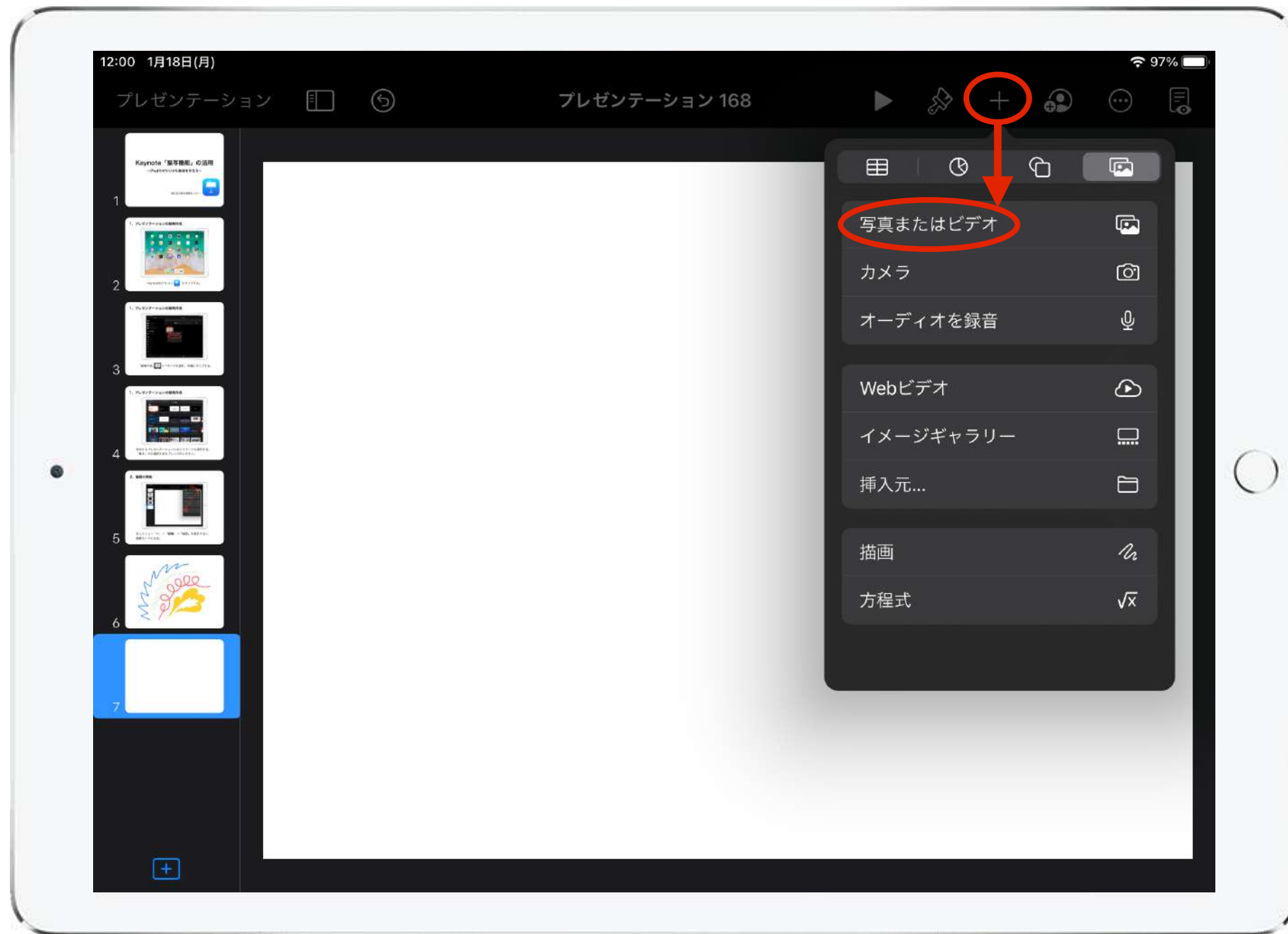
3、描画の基本操作



描画で描いたものは図として扱われるため、移動や拡大縮小、回転などの編集を加えることができる。

4、描画の応用

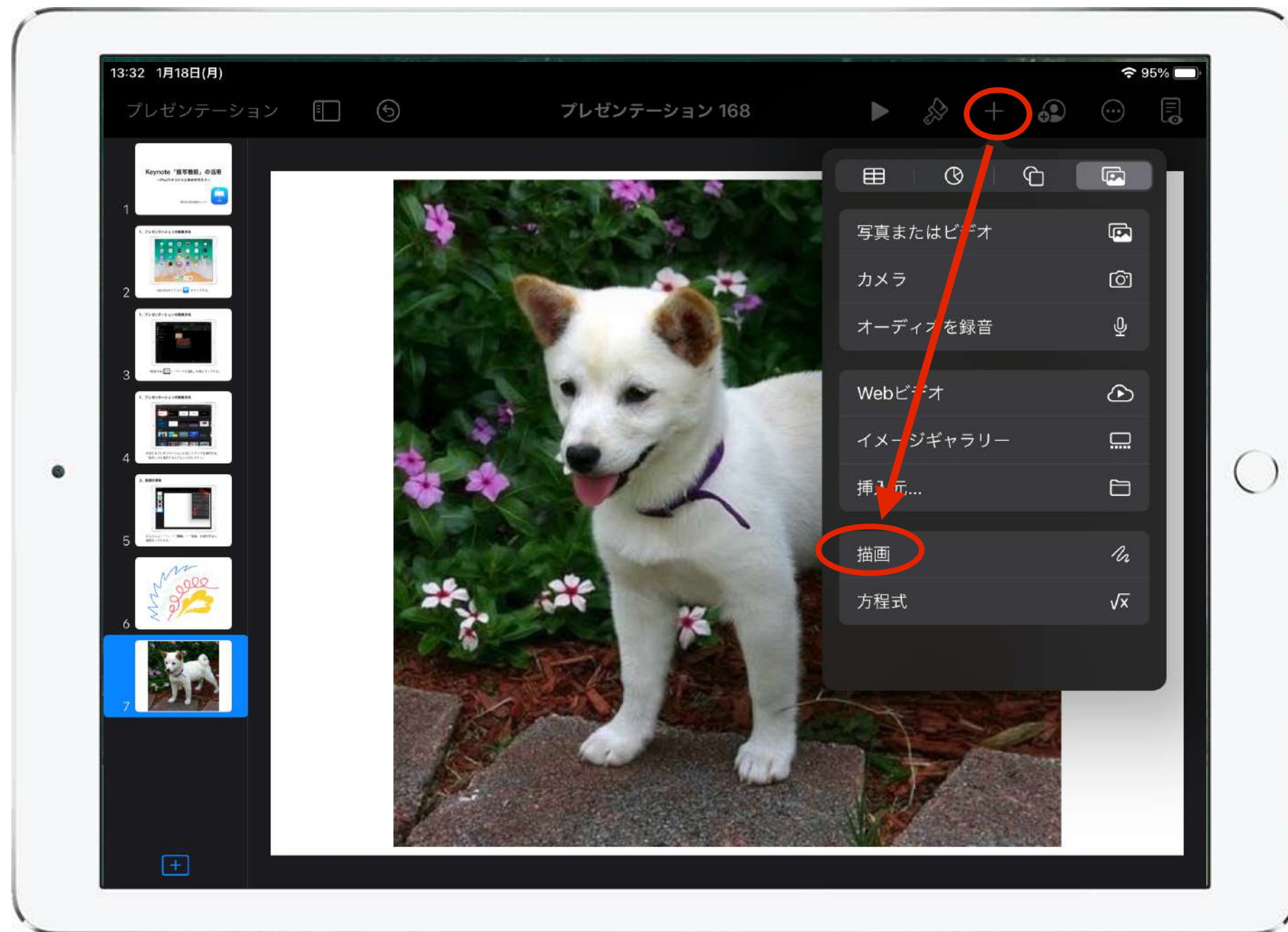
写真をトレースしてイラストを描く



メニュー「+」から「写真またはビデオ」をタップして、写真を挿入する。

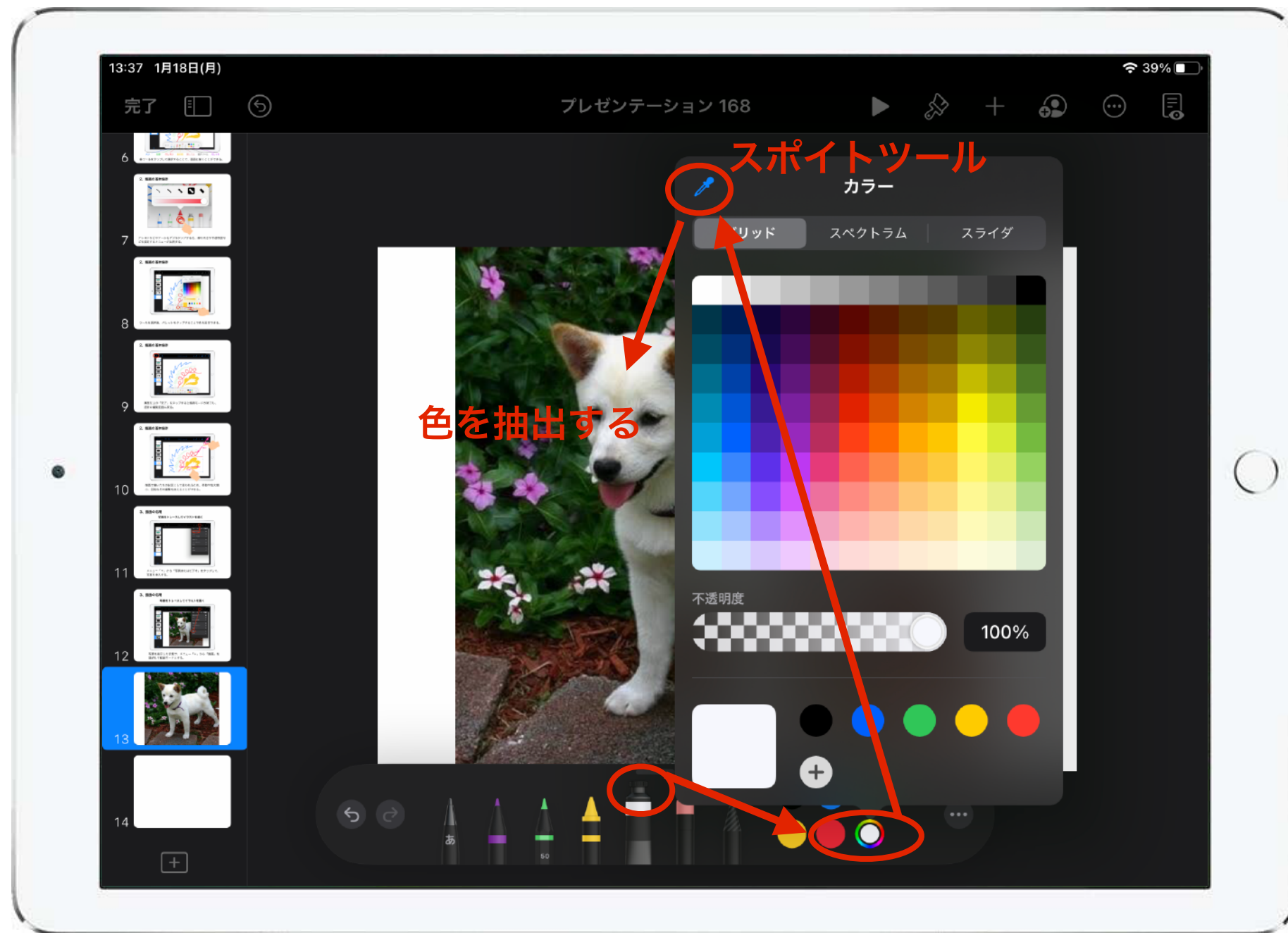
4、描画の応用

写真をトレースしてイラストを描く



写真を表示した状態で、メニュー「+」から「描画」を選択して描画モードにする。

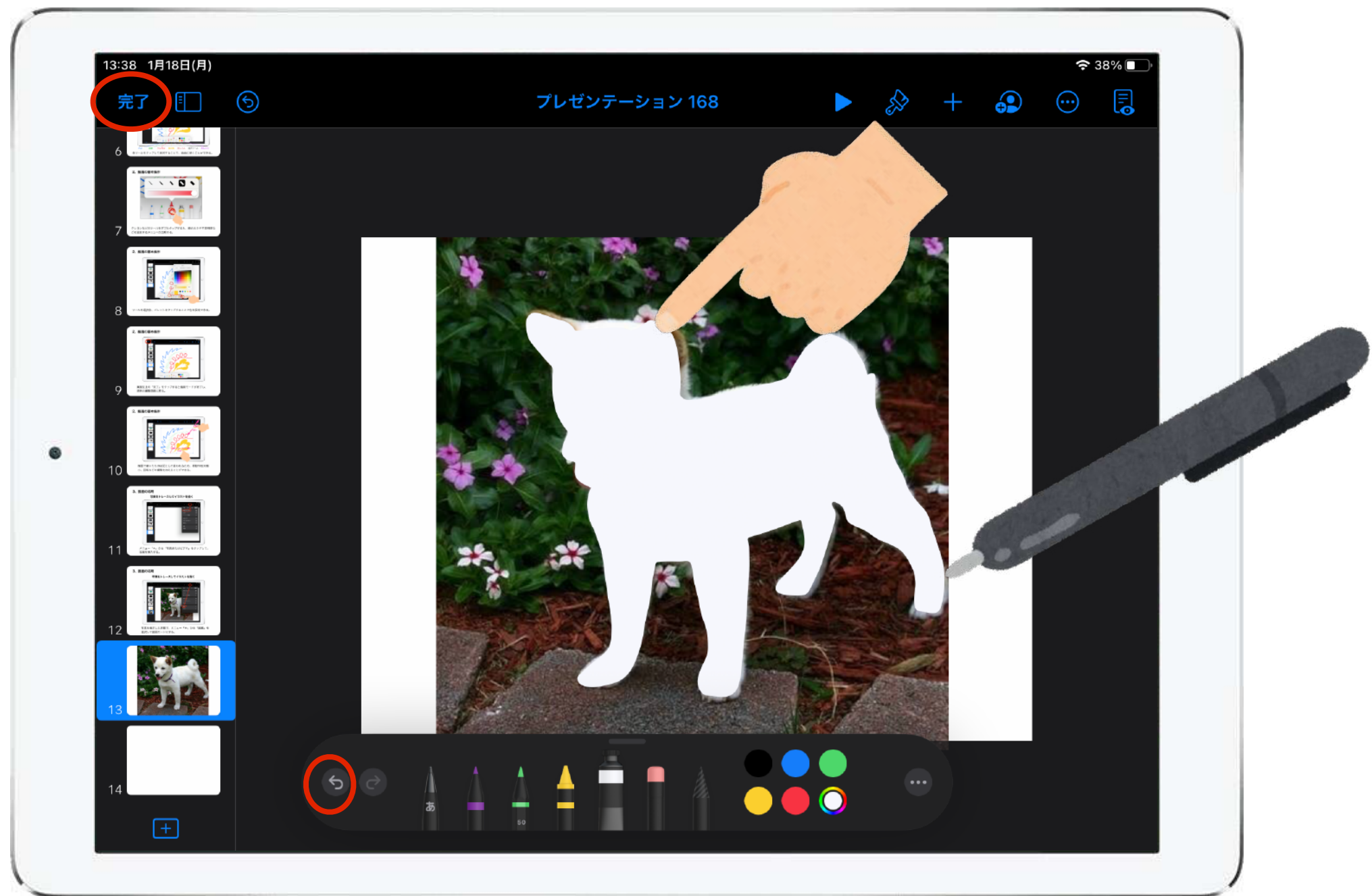
4、描画の応用




描き方の例

絵の具ツールを選び、パレットからスポイトツールで写真から色を抽出する。

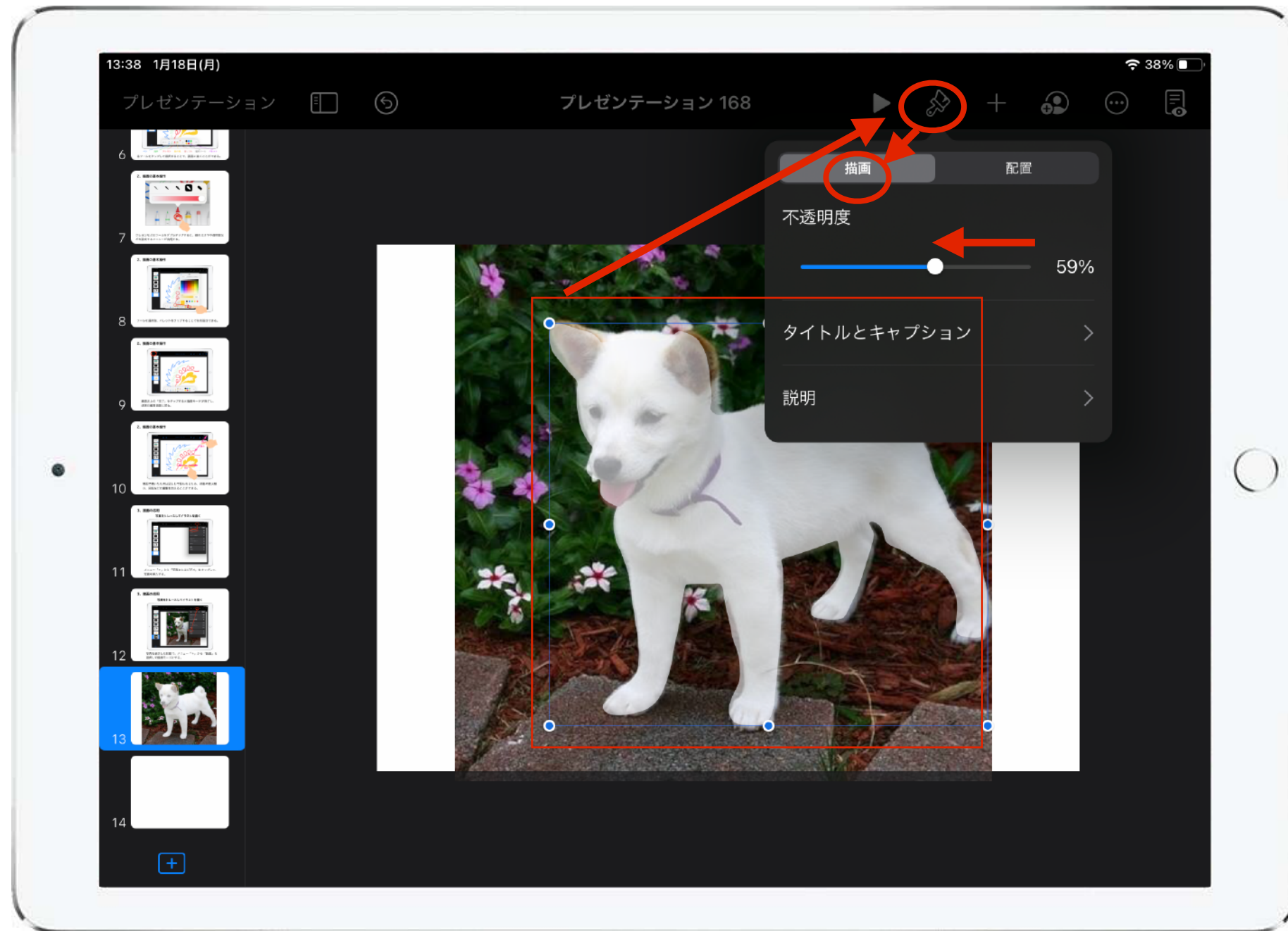
4、描画の応用




絵の具ツールで被写体の輪郭を描き、シルエットを作る。描き間違えても「」でやり直すことができる。

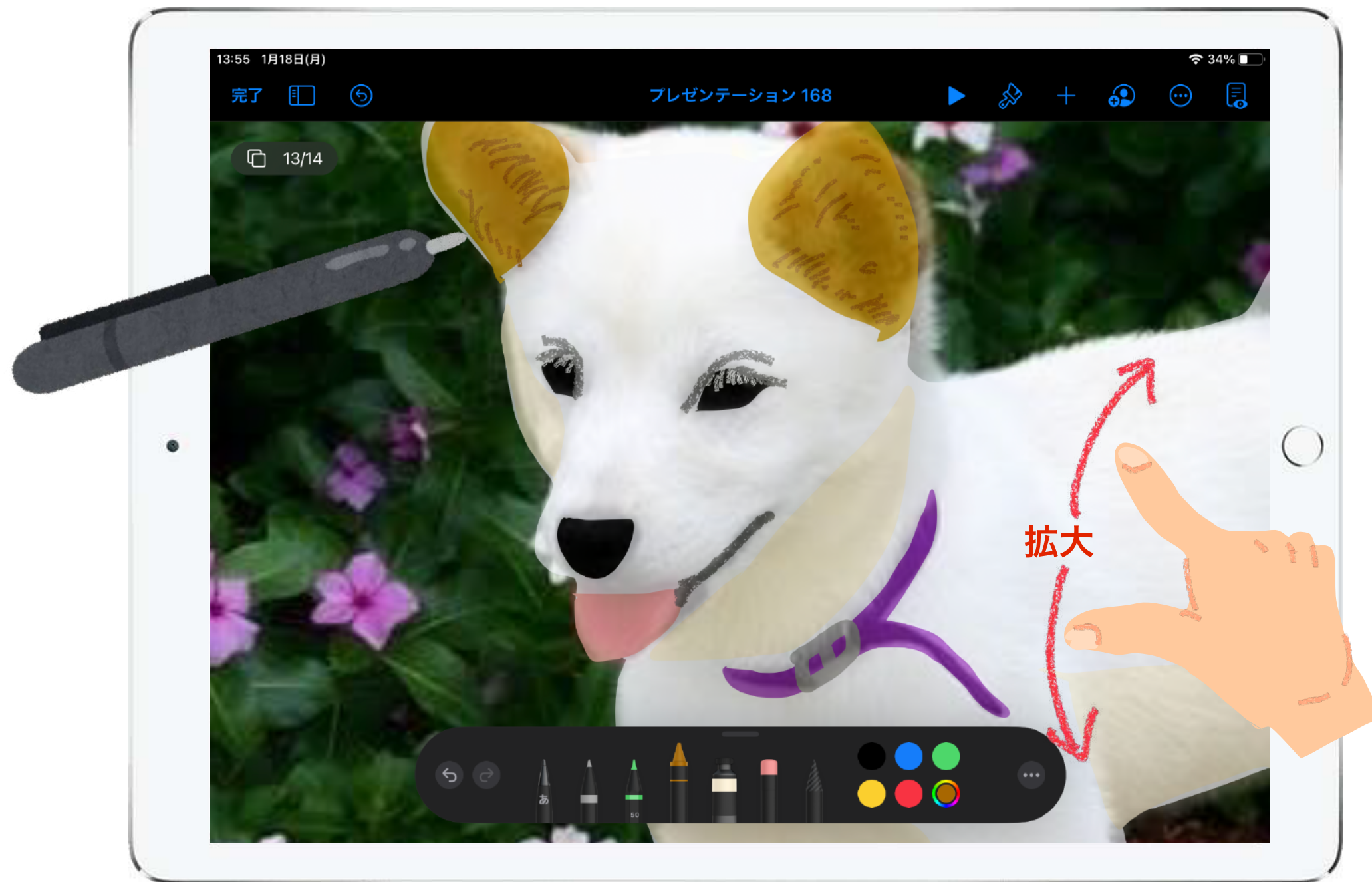
シルエットが描けたら「完了」をタップして描画モードを一旦終える。

4、描画の応用



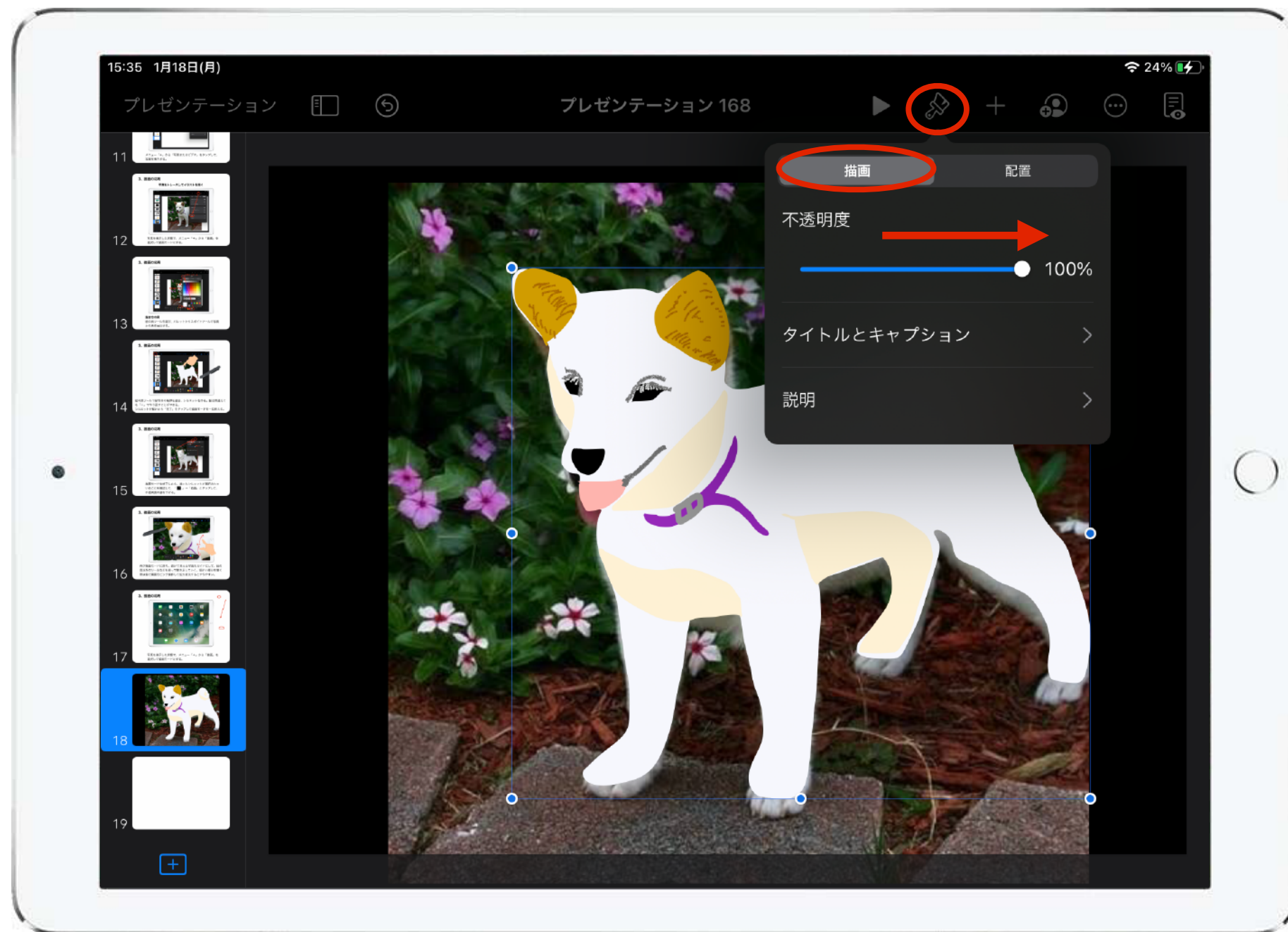
描画モードを終了したら、描いたシルエットが選択されていることを確認して、「」→「描画」とタップして、不透明度の値を下げる。

4、描画の応用



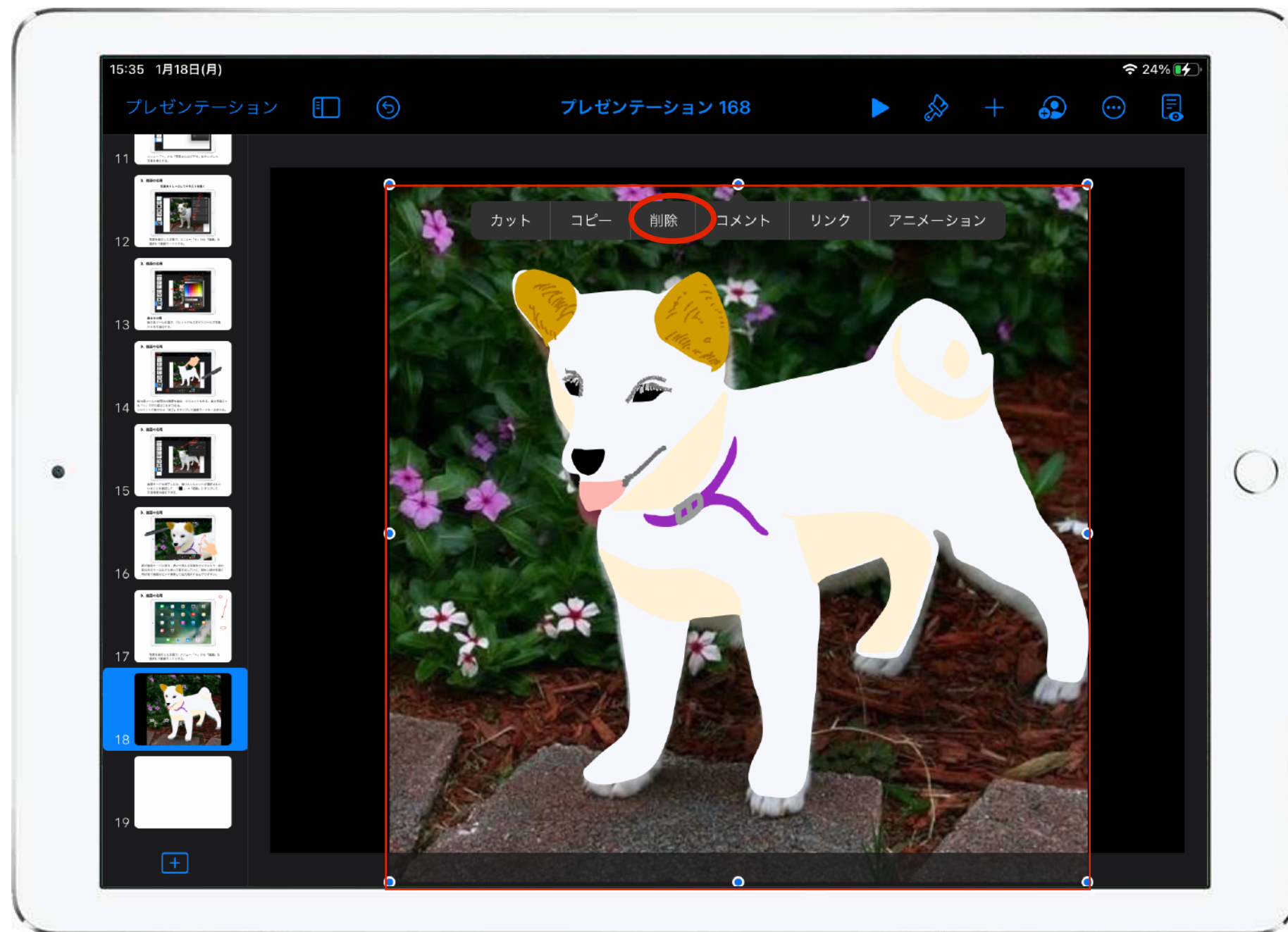
再び描画モードに戻り、透けて見える写真をガイドにして、絵の具以外のツールなども使って描き足していく。細かい部分を描く際は指で画面をピンチ操作して拡大表示するとやりやすい。

4、描画の応用



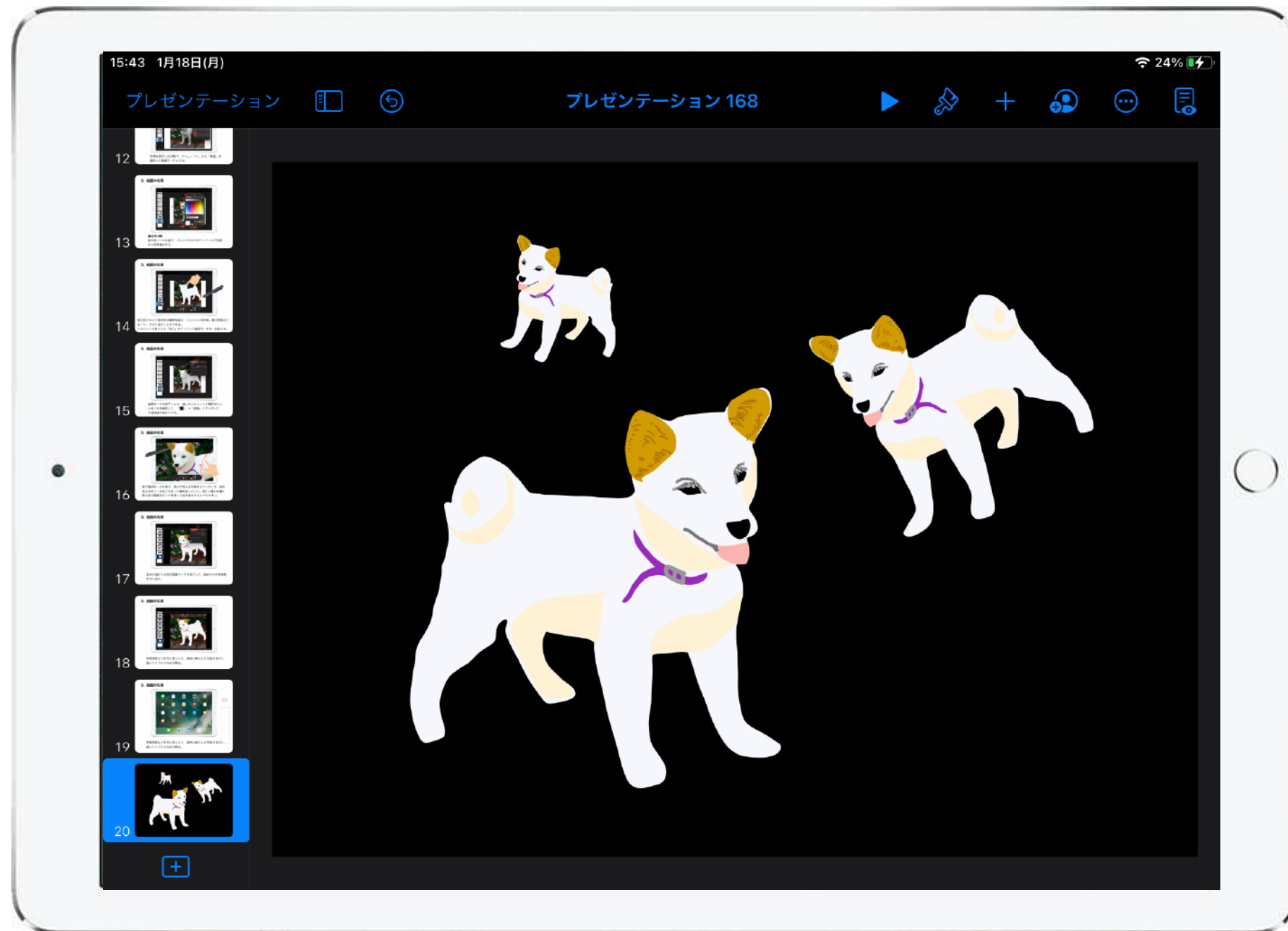
全体を描いたら再び描画モードを完了して、設定から不透明度を元に戻す。

4、描画の応用



不透明度などを元に戻したら、最初に挿入した写真を消すと、描いたイラストのみが残る。

4、描画の応用



描いたイラストは図として扱われるため、拡大縮小、複製、左右反転などの加工を加えることができる。
色が白いイラストは背景を黒くすると見やすくなる。



背景なども描くと見栄えが良くなります。